

## シグマ研究委員会

### 核構造・崩壊データ専門部会 核構造WG会合議事録

日 時 昭和 54 年 6 月 20 日 (水) 13:00 - 17:00  
21 日 (木) 9:00 - 17:00

場 所 原研・東海研 研 2 - 227

出席者 橋爪, 天道(理研), 喜多尾(放医研), 神戸(東工大),  
宮野, 大矢(新潟大), 松本, 大島, 田村(原研)

検討資料 1. A = 123 ENSDF  
2. A = 127 ENSDF

#### 議 題

##### 1. A = 123

A = 123 の ENSDF はほぼ完成した。次週に磁気テープを作成して、ORNL へ提出することになるので、誤りがあればそれまでに修正をすることになった。

##### 2. A = 127

A = 127 では、これまでに I を除くすべての核についての個々のデータセットができているが、Adopted levels, gammas については、まだ統一をとらねばならない点が残っている。

$^{127}\text{Sn} \rightarrow ^{127}\text{Sb}$  のデータ・セットでは同時計数のデータが表示されていない。 $^{127}\text{Sb}$  の adopted levels, gammas では 1920 keV の  $11\mu\text{s}$  のレベルに対して 3 粒子結合から作られる ( $15/2^-$ ) のスピン・パリティを指定することができる。しかしながら NDS のスピン・パリティの規則からは多少無理がある。

$^{127}\text{Te}$  では、(d, P) 反応のスペクトロスコピックファクターの表示に、

これまでと違った表記方法があり， Adopted levels， gammas でスピン・パリティの指定とその理由が不十分な点がある。クーロン励起では BE 2 の平均値を求めたり， 半減期の計算が必要である。

$^{127}\text{Xe}$ ，  $^{127}\text{Cs}$ ，  $^{127}\text{Ba}$  などではファイルは形式的にはほぼよいと考えられる。

### 3. $A = 125$

$A = 125$  は田村， 松本， 大島で担当することに決め， 個々のデータ・セットが 40%程度できている。 GTOL， LOGFT などのプログラムのためにファイルを作成して， IBM 370 へ計算依頼をしてある。